

## 座談会

# これからの鶏卵出荷

よい卵 共同出荷 価格安定

### 明るい最近の卵価の動き

**宇野** 最近專業養鶏とか大数羽飼育というものが数多く出てきているのですが、そこから生産されました卵が大部分阪神市場へ集中して行く現状がありますが、そういう点からみまして最近の大阪市場における卵の動きについて高岡さんの方から1つお話を聞きたいと思うんですが。

**高岡** 最近小口養鶏から大口集団養鶏になっていくということは各県共そういった動きがございます。全販連大阪支所管内の徳島・香川・本県（岡山）、東の方では滋賀県とか各県でそのような集団養鶏地区が出来ておりまして、これから卵が出てきているわけです。最近の鶏卵の価格をだどるとわかるわけなんですけど、養鶏が非常にふえたというのは昭和35年の春のヒナから相当ふえております。これが産卵を始めました35年の8月以降急激に卵の生産が増えまして、生産のヒナにおきましては37%も増えている。鶏卵の出廻り量においても9月以降は前年に比べてやはり30%以上ふえたわけです。こういうわけで35年の8月以降価格も大巾に下ってきています。そして36年の春から夏にかけて卵価は非常に安かった。入荷量も30%以上前年同期をオーバーしたような状況でした。

ところが36年のヒナにおいては、全国のヒナの生産が15%程度のふえ方であるということですが、それが36年の場合育成率が悪いということです。どこで聞きましても中雛、大雛になってからの病鶏がたくさん出て成鶏になった率が悪いということ。それから秋に大阪近辺を襲いました台風によって大阪地区の養鶏の一時大被害を受け、卵の出廻りも20%から減ったというふうなこともあります。そういう関係で卵の出廻りにおいては35年と36年では大きな伸び方じゃないというのが今年（36年）の8月以降の動き方なんです。



語る右から渡辺さん、高岡さん、杉原さん

したがって卵価においても8月は大体前年と同値にもどっています。それまでは月によっては30円以上、少ないときでも5～6円安いというふうなのが8月に同値にもどり、9月から以降では、9月が昨年より14円高、10月は12円高、11月22円高という状態で、12月においても今の価格の動きからしますと、やはり10円以上高いという非常に明るい状況にあります。

### 団地形成で品質の改善を

**宇野** 鶏卵の品質という面での各県の品質改善に対する意欲とか計画というものはどうでしょうか、相当進んでいるんですが。

**高岡** 品質改善については、各県共に非常に力も入れ、われわれ担当してお徳りします大阪支所管内の本県はじめ香川、島そして今度高知で移出鶏卵の検査をやるというふう非常に努力しておられるわけです。

しかし実際的に以前とどれだけ変わってきたかといいますと、やはり今まで夏場においては腐敗卵というものが非常に多かったです。それが年々減ってきております。全販連で扱っております。腐敗卵の事故率におきましても、年々扱量は伸びておるのかか

## 岡山畜産便り 1962.02

わらず、事故で値引きする金額というものは減ってきているのが現状です。

**宇野** 岡山の卵はどうもまだ品質が悪いものが多いということも聞かれます。出荷側として最近の農協あたりの考え方は非常に進んできてはおるようですがその状況についてはどうでしょうか。

**杉原** 共同出荷をやってみると消費地の方からどういう点が悪いとか、目切れがるとかの注意が来るわけなんです、われわれはそれをすぐ卒直に単協の方へ伝えてやります。ただそういうふうなことを聞くだけではわからないわけですから、できるかぎり単協の販売主任あるいは養鶏組合の人に市場へ行ってもらって、そして他府県のものとの自分のところの荷とを実際に箱を明けて見てもらう。そうするとなるほど自分は今までこれでよいと思っていたのだがこれではいかんというふうに、自分の荷に対する認識というものが改まってよくなって来る。

ところがまだ集卵をして箱詰めをやる場合に、小さい部落、部落でこれをやる。したがって規格別に選別するにしても小量のもので選別するからどうしても混合卵になってくる。というふうなことが出てくると思うんです。そういうことで今後はできる限り農協へ全部これを集めてしまう。そういうことで手なれた人が居られれば、もちろん目で見る選卵もいいでしょうが相当進んだ選卵機もあるんですから、そういうもので正確な選卵をやることです。

それから品質の点ですが、やはり少羽数飼育家のをたくさん集めるというところに問題があるんだと思います。いまわれわれが進めておりますのは団地形成ということで、1単協で2万なり3万なり羽数をふやして行くことです。そしてそのたくさんの卵を1カ所へ集めて機械選卵をやって行く。また5日目毎に出しているのを3日目毎の集荷にして行く、というふうなことで鮮度を高めていきたいと考えております。

## おそろしくない貿易自由化

**宇野** いよいよ鶏卵も近く貿易自由化の品目の中に入って行くということで、一部には価格が下落するのではないか、外国の卵が日本へ来るのではないかと心配する向きもあるようですが、海

外の鶏卵が日本の卵の価格に影響するかという見とおしの点はいかがでしょうか。

**高岡** 全販連でも各国の卵価を調べていますが、ヨーロッパ、アメリカあたりに比べると日本の卵価というのは何ら高くないという結果が出ております。

輸入するとして一番生産の多い国はという

と、現状では昔中国から大量の卵が入ってきて日本の養鶏を圧迫したということもあり、結局中共が問題ということになると思います。それでは中共の状況はどうかと申しますと、いま中共では非常に食糧難で、鶏卵も国内の配給を増やさなければならないということで、今まで香港に相当出たおったわけですが、これが最近輸出する量を減らすという形に変わってきています。いま日本から鶏卵を輸出しているのが、香港、沖縄ですが、香港の輸入の状態をみますと、一香港に鶏卵が出はじめましたのが34年の暮れからなんです、その後一年々順調に伸び、年間5千トンから6千トンという数量が出ています。36年に入り上半期（1月～6月）の実績では若干低下しています。日本から出た量は623万ドルで、これは前年の1～6月に比べますと29%ほど減っています。また香港に輸入した全体の率から申しますと623万ドルは16.1%、中共が50%、タイが33.9%というように断然中共からの卵が多いわけです。それが下半期において変わってきています。

というふうに、今まで中共の卵が50%以上香港へ出ていたのが、最近においては10%そこそこまで減ってしまったということで、タイの方は大きな動きなしに輸出され、日本の鶏卵が大きくふえて香港に進出している形に変わってきているわけです。

12月には日本の卵価が非常に上がったので少し停止していますが、37年春には卵価が下がりますので、そうなりますと香港に対する輸出もかなり期待できるのではないかとこのふうにも考えられます。

輸入面については外から日本に入ってくる余地は今のところないよう考えております。

香港の鶏卵輸入状況  
(10キロ詰ケースに換算)

月 別	輸入量	同左内訳(割合)		
		日本	中共	タイ
36年7月	ケース 187,000	% 10	% 65	% 25
8月	151,000	8	58	34
9月	161,000	40	24	36
10月	135,000	39	18	43
11月	145,000	55	12	33

## 岡山畜産便り 1962.02

### 望まれる価格安定の強力施策

**宇野** 最近鶏卵価格の安定について国でも価格安定法が制定され、いろいろ各方面でこの問題が取沙汰されていると思うんですが、農協あたりでの反響というものはどういうふうな形で出ておるでしょうか。

**杉本** まだ詳細をはっきりつかんでいないというのが実状なんです、卵は豚肉や酪製品と違って直接の買上げはやらないといわれています。政府が考えていますのは、卵は生産者団体つまり農業協同組合または連合会が卵価が極端に下がったとき、これでは辛抱ができないから自分で出荷調整をやって保管しようということ、国へ計画書を出して認定してもらって、系統の農協がこれを保管するというふうな仕組みになっているわけです。で、それに対する反響というものは出ませんが、われわれが出て歩いて産地側の人にお話するのは、やはりこういうふうになってくると、取引というものを国の行政に沿った方向に持って行かなければいかんということ。それは個人個人がいわゆる業者の方々へ思い思いにわずかなものを出しているということでは、そうした恩恵を受けようとしても受けられない。やはり系統の組織でたくさん量をまとめて、せつかく政府がそのような施策をやるのであるから、それに沿えるような方向に持っていくことが必要じゃないかと言っているわけです。これは今後生産者としても充分考えて行かなければならない問題であろうと思います。

**宇野** 価格安定法が出るとすぐにもう価格が安定するんだというふうにも受取られ安いです、その法律のはたす役割、これに対する生産者側の考え方という点で高岡さん御相談でも受けられたことがあるんじゃないでしょうか。

**高岡** まだくわしいことは聞いていないんですが、われわれ生産者団体として国に対してどれ位の線が再生産できる価格であるかという点をはっきりさせることが一番問題になると思うわけです。そこで全販としましては、その線を全国的に調査する必要があるということで、東京の方から各県の方へ依頼いたしまして、各県で3カ所なり4カ所なりモデルの養鶏場—100羽、300羽、500羽位のところを選定し

ていただいて、そこでどれ位が再生産できる、つまり価格補償を要する価格だということをよく把握して、それによって上の方へ要望したいと考えております。

今の段階では鶏卵は事業団が買上げるということじゃなしに、農業協同組合またはその連合会—全販等もその中に含まれる—で、卵価が非常に低落する場合には冷蔵保管して、そのうち金利、倉敷に相当する部分を国の助成を得るといふような形になるわけです。つまり国が買上げてくれるといふような形でなしに自主的に価格の調節をするという恰好なんです。ところがわれわれとすれば、こういうものを国が買上げてそれを市場に出さずに、粉卵なら粉卵に加工してしまつてこれを海外に輸出する。それに対する損失を国が持つてくれるといふところまでやっていただきたい、そういうことが一番生産者のためになるわけです。冷蔵して一時的に価格を安定させても、それを冷蔵庫から出して国内で販売することになりますと、下がる時は若干調節できますが、卵価が上るときにこれを抑えるといふような形になって、養鶏家とすればそう大きな得にならないということになるわけです。やはり卵価の安いときに、先程申し上げましたように加工までしてしまつて、そして加工したものを輸出にまわすといふふうには、国内の市場から姿を消してしまうといふ線にもっていつてもらうように要望したいと考えています。

### 貯蔵に耐えるよい卵を

**宇野** 冷蔵保管をして需給調整をはかるということですが、その場合には色々経費がかかるし、卵価も新鮮なものより下がると思うんです。大よそどの位の価格差が出るものでしょうか。

**高岡** それは例えば卵価の一番安い3月、4月、5月のものを冷蔵に入れて8、9月の卵価が上る時期に出すとしますと、冷蔵庫へ入れている冷蔵庫の温度というものは0度・+1度、2度といふようなそう低い温度のところへ入れているわけではないわけです。その間、卵自体の水分が発散して量目が相当減ります。大体10kgで500g~600g程度の自然減もあるわけです。そのうえ長期間冷蔵している間に

## 岡山畜産便り 1962.02

ヒビ玉とか糞付の玉子とか、そういうものは腐敗してしまいます。これを市場へ出した場合には生卵と同じような価格では取引されないということになり、そのときの生卵の値段より冷蔵ものは、大体キロ当たり20円以上格下げしなければ買手がないというような恰好になります。

**宇野** 今のことから今後よい卵を出荷しなければならないということがわかるんですが、渡辺さんそれに関連して今後規格の問題が出てくると思うんですが、いま経済連でおやりになっている岡山県での規格と今度出来て実施されることになる規格との開きはどんなですか。

**渡辺** 名前が変わって特級、特1級、特2級というような呼び方をするそうですが、私たちの方の今までの状態では鶏卵の自動選卵機を使って大玉、中玉、子玉というように分けてもらっていますが、それが将来そのような規格になって行くんだというように思っております。

**宇野** 規格がはっきりするに従って、生産者の方でも商品ということを考えて品質も良くなって行くと思いますし、さき程のお話にもありましたように各県とも非常にこの点良くなってきているということですが、大阪経済事務所あたりで問屋筋を廻ってみられて、消費者側の鶏卵の品質に関しての考え方というか要望というのはどうですか。

**題府** 私、市内の問屋さんを廻ってみるんですが、今まで岡山県の産地の方の御努力あるいは指導者の方の御努力によりまして非常に良いということで伸びていたのですが、最近後進県が非常に品質の改善に力を入れてやっていることから、私達が現地におりまして、これに追い抜かれるようなことがあっては困るということを県下の方に何とか呼びかけて、後進県が伸びる以上に伸びていただきたいということを強く感じます。昔からやっておられる問屋さんから、品質改善についての意欲が少ないんじゃないかということも聞くわけです。この面には特に力を入れて岡山県の銘柄というものを落さないように努力していただいたいと思うわけです。

## 飼料自給も考えて経営の合理化

**宇野** 私どもとしまして、良い品質のものを消

費者に供給し、そして価格の安定をはかって行きたいということは当然ですが、国の施策にも歩調を合わせて早く養鶏を安定した軌道にのせていきたいものと思うわけです。ということからこれからの養鶏経営の問題点あるいは考え方といった点について1つ。

**杉本** やはり養鶏経営の合理化でなければならぬと思うんです。それにはやはり技術というものが充分でないということが云えると思います。本県には幸い全国一を誇るような養鶏試験場もありますし、養鶏県として優れた技術者ももっているんですが、そういう方々に今後養鶏団地の育成などに付きましても、技術面で充分御指導を願って行く必要があると思います。

また問題は何といたしても、飼料だと思います。最近の状況を見ましてもフスマが非常に高い、従って配合飼料も高い、また配合飼料の原料となる飼料が多くは海外から求められる。魚粉にしても日本の漁業では供給できないので外国から求めなければならない。あるいはトウモロコシにしましてもそのとおりです。従って外国の農産物の作況とかいろいろな貿易や経済の条件によって入ったり入ってこなかったりする。ということで絶えず飼料面での不安がる。この点を何とかしなければならぬと思います。つまり国内での自給態勢を考えて行かなければならぬと思うわけです。

最近麦の作付が非常に減ってきたのですが、私は省力耕作によって麦はやはり作るべきじゃないかと思えます。仮りにフスマの価格を考えてみましても3・75kg100円以上になっています。屑小麦とかあるいは屑米でしたら同じ3・75kg100円で農家の人は売っている。100円以上のものを買いながら100円でそれ以上飼料価値のあるものを売っているのが現状じゃないかと思うんです。こういう点から考えてみても、今後は機械力がすでに相当農家の方は持っておられるのだから、いまの水田を遊ばすのでなくてやはり裏作で麦を作る。そして麦は販売を考えずにこれを飼料に向けて養鶏飼料を確保するという、勿論、自給飼料だけではいけません、これにふさわしい配合飼料を作り、やはり自給飼料面での供給もわれわれは考えて行かなければいけない、やはり

## 岡山畜産便り 1962.02

生産者団体としてはそうした面も考えて行く、また農家の技術というものでもこれをバックアップしてもらおう。それによって生産費を引下げて行くということに今後は努めて行かなければならないと考えているわけです。

**宇野** 鶏卵出荷を中心にいろいろと有益なお話を伺いましたが、経済連さんが県下の移出鶏卵の過半のものを一手に引受けてやっておられるわけでわれわれも今後に非常に期待を寄せているわけです。どうもありがとうございました。

### 出席者

#### 語る人

全販連大阪支所	鶏卵課長	高岡	実
岡山県経済連	畜産部長	杉原	昌孝
〃	畜産課長	渡辺	昇
岡山県大阪経済務所	技師	題府	優

#### 聞き手

岡山県畜産課	畜産係長	宇野	仁
--------	------	----	---

鶏卵の全国生産は昭和35年に遂に100億個の大台を突破したが、これは国民1人当りの年間鶏卵消費量もすでに100個を越えたことを示している。岡山県の現状についても養鶏羽数は推定350万羽、これは前年にくらべ35%増しで、36年中の鶏卵生産は2万7千トン、そのうち約65%のものが主に阪神市場へ出荷されているものとみられる。

阪神地区への鶏卵の入荷量は月々約6千トンと推定されるが、鶏卵生産は畜産の選択的拡大の波に乗って今後急速に増加して行くものと考えられる。阪神消費圏をめざす近隣各県からの出荷競争もさらにはげしくなってきたそうである。

「よい卵、よい価格」は消費者と生産者の声であろうが、商品としての鶏卵ということでまず生産者側としてはいろいろの面で改善の努力をおこたってはならない。そこで出荷鶏卵の価格や品質改善、価格安定なども含め「これからの鶏卵の出荷」について、さる12月22日岡山県庁で行なわれた移出鶏卵改善共励会に出席の系統出荷機関の担当の方々にその機会をとらえて語ってもらった。